

## 宇都宮市立清原東小学校 第5学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と、学校のでできごとについて話している。」と回答した児童の割合は9割を超えており、家庭内のコミュニケーションが充実している児童が多い。

○「毎日朝食を食べている」と回答した児童の割合は100%と高い。

○「将来の夢や希望をもっている」と回答した児童の割合は93.7%と市の平均より2.9ポイント高くなっており、本校で取り組んでいるキャリア教育が児童の中に根付いていることが感じられる。

○「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」と回答した児童の割合は、市平均より7.4ポイント高くなっている。また、「自分がもっている能力を十分に発揮したい。」と回答した児童の割合は92.1%と高い。これらの回答から、児童のやる気や意欲の高さが伺える。

○「学校の宿題は、自分のためになっている。」と回答した児童の割合は98.4%と高い。「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」と回答して児童の割合は双方とも市平均より13ポイント以上も高く、家庭学習に意欲的に取り組む児童が多いことが伺われる。

○「授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対して国語、社会、算数、理科とも肯定的な回答をした児童の割合が9割を超えている。特に、国語、算数、理科は9割5分と高い肯定的回答率となっており、授業に意欲的に取り組もうという姿勢の児童が多いことが伺える。

●「自分にはよいところがあると思う。」児童の割合が市平均より大きく下回っており、自己肯定感が低い児童が多いことが伺える。よさを認めたり、ほめたり、励ましたりする機会や場面を多く設け、自信をもたせ、自己肯定感が高まるようにする。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」児童の割合が市平均を大きく下回っている。個別に指導する場を設定するなど、児童が安心して学習に取り組むことができる雰囲気づくりに努める。

●「家の人と将来のことについて話すことがある。」や「家の人と学習について話をしている。」については、県、市の平均を下回っている。学級だよりなどを通して、将来のことや学習する意味などについて話すよう呼びかけることで啓発を行っていく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」については、県、市の平均を下回っている。また、「テレビのニュースやインターネットのニュースを見ている。」については、県、市の平均を上回っているが、個人差がみられる。朝の会や社会などにおいて、時事問題を話題にしたり、国語や総合的な学習の時間において、インターネットのニュースの利用の仕方について指導する機会を増やす。